

ごあいさつ

井田 秀夫



平成26年4月から自然の博物館でお世話になっております井田です。

井上前館長同様よろしくお願い申し上げます。

長く熊谷近辺に住んでいることもあり、長瀬・秩父方面へは「どこかへ」と思う折に触れて、一人でまた家族等で訪れてまいりました。20年以上前になるのか記憶が定かではありませんが、学芸員の方々に誘われて両神山に登りました。白井差から歩き始め山道の休憩時に当館の本間元館長さんが、岩のかけらを拾い上げこれは〇〇の化石でここが海だった時のものだという旨のお話を驚きをもって興味深く聞いたことが思い出されます。

さて、当館では本年度の特別展「恐竜時代」を6月から10月まで開催しております。昭和56年開館以来初めて本格的に恐竜を取り上げ、埼玉の恐竜時代（中生代）を再発見していただく展示企画として大変好評を得ております。特に子どもたちの夏休みの期間中には大勢の家族連れも迎えることができました。また、今回の「図録」は、恐竜やアンモナイトの歴史的展開、日本での発掘状況、なぜパレオパラドキシアが恐竜でないのか、埼玉県内での恐竜化石の発見の可能性など、興味深く解り易い内容となっておりますので、是非、御購入をお勧めいたします。

また、当館は、御案内のように平成24年10月にリフレッシュオープンをいたしましたが、その目玉の一つが観察園「カエデの森」の新設でした。カエデは世界で129種、日本で27種が生息しているうちの21種が県内で自生していることから、埼玉の自然の多様性も学べる場として、館内展示と結びつけた屋外生態展示として位置付けております。年ごとに成長するにつれ既存のカエデとともに豊かなカエデの森となり、地元観光協会との

秋の紅葉のライトアップも一段と映えるものになっていくと思います。

もう一つは、「ジオパーク秩父」のガイダンス機能の充実です。平成23年9月に晴れて秩父地域が日本ジオパークに認定されました。ジオパークはジオ（地球）ツーリズムで学び楽しむ場として、糸魚川や伊豆大島など国内で33か所認定されていますが、当館は、「ジオパーク秩父」の拠点施設として、調査研究やガイダンス機能を担っております。その関係から、平成24年10月に企画展「ジオパーク秩父へのいざない」を開催するとともに、現在、当館のオリエンテーションホールに「ジオパーク秩父」の解説展示を行っております。

さて、今年は、博物館が立地する「長瀬」が、国の名勝・天然記念物に指定されて90周年に当たります。また、「日本地質学発祥の地」ということから、当館は自然系の博物館としては地質学に特色のある博物館として、現在でも各地の大学の地質関係の学生の巡検や地学学習の利用が多いところです。

また、(株)秩父鉄道との縁も深く、当館が県立としては全国で初めて「自然史博物館」という名称で設置できたのも、秩父鉄道が当地において大正10年から昭和55年まで自然系の博物館を設置・運営され、当館が、約1万2千点の資料と伝統などを引き継ぐことができたからということが言えます。

現在も、色々な企画や事業において秩父鉄道や地元観光協会等との連携を図りながら、地域の観光振興にも寄与すべく取組を進めているところでございます。

今後とも、自然の博物館は、県内唯一の自然系総合博物館として、より専門性を発揮しながら、親しみやすく魅力ある、安心・安全な博物館であるよう取り組んでまいりますので、引き続き皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げます。

(いだ ひでお・館長)